

永原小学校からの報告

水生生物調査結果

調 査 場 所 名 (No.)			山門公民館横 No.1				西浅井支所横 No.2				No.3			
月 日 時 刻			6月1日 10時30分				6月22日 10時30分							
天 気			曇り				曇り							
水 温 (°C)			20.0 °C				19.0 °C							
気 温 (°C)			29.0 °C				22.0 °C							
川 幅 (m)			5.7 m				9.0 m							
河 川 名			大浦川				大浦川							
生 物 を 採 取 し た 場 所			全面				全面							
水 深 (cm)			10.0 cm				15.0 cm							
流 速 (cm / s)			10.0 cm/s				50.0 cm/s							
水 の よう す			指標生物											
I き れ い	1	カワゲラ類												
	2	ナガレトビケラ・ヤマトビケラ クロツツトビケラ類												
	3	ヒラタカゲロウ類												
	4	ブユ類												
	5	ヘビトンボ類												
	6	カガシボ類	●				○							
	7	サワガニ	○											
I・II 共通	8	ウスムシ類												
	9	2以外のトビケラ類	○				○							
	10	3、14以外のカゲロウ類	●				○							
II 少しよごれている	11	ヒラタノムシ類					●							
	12	シジミ類												
II・III 共通	13	カワニナ	○				○							
III よごれている	14	サホコカゲロウ												
	15	ヒル類					○							
	16	ミスムシ					○							
	17	モノアラガイ												
III・IV 共通	18	サカマキガイ												
IV 大変よごれている	19	赤いユスリカ												
	20	イトミミズ類	○											
	21	ハナアブ類												
水 質 判 定 表	水のようすの区分		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
	1	みつかった指標生物の 種類の計 (○+●)	4	3	1	1	3	4	3	0	0	0	0	0
	2	みつかった指標生物のうち 一番数の多くあった種類(●)	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	合 計 (1欄+2欄)		6	4	1	1	3	5	3	0	0	0	0	0
	判定結果(合計が最も大きい区分)		I				II							

調査考察、活動内容等

1. 調査について

本学区は、山や琵琶湖に囲まれた、自然豊かな地域です。学区内には「山門水源の森」があり、「山門水源を次の世代に引き継ぐ会」の人たちを中心に、本校や西浅井中学校とともに貴重な動植物の保護活動を行っています。その「山門水源の森」を源流にもつ「大浦川」で、4年生が水生生物調査を行いました。

調査は、今年で7年目を迎えます。昨年度までの結果と比較するために、今年度も同一地点である「山門水源の森」に近い山門公民館横と、下流に位置する西浅井支所横の2カ所で行いました。



6/1 大浦川上流（山門公民館横）



6/22 大浦川下流（西浅井支所横）

2. 調査の様子

①1 回目 6/1 大浦川上流（山門公民館横）

大浦川を調査するにあたって、「山門水源の森」の川の水を使ってCODパックテストを行い、水源の水がとても美しいことを確認しました。そのため、上流の川は同じようにきれいだろう、という予想を立てて調査を行いました。

講師の先生に来ていただき、きれいさを調べるためには棲んでいる水生生物を調べればいいこと、その生物の採取の仕方、見つけやすい場所などを教えていただきました。

自分たちの身近にある大浦川には、どんな水生生物がいるのか、子ども達は興味津々の様子でした。小さな水生生物であるので、初めはなかなか見つけれない様子でしたが、川底の土や石をザルで



すくって念入りに探していると、いろいろな生物を見つけることができました。

ここでは、「ガガンボ類」と「カゲロウ類」が一番多く見つけられました。他には、「サワガニ」、「トビケラ類」、「カワニナ」、そして、「カメ」や「ゲンゴロウ」、「カワムツ」、「カワヨシノボリ」なども見られました。子どもたちは、たくさんの水生生物に驚きの声をあげていました。



②2 回目 6/22 大浦川下流（西浅井支所横）

前回より、琵琶湖に近い下流ということで、上流とは違った水生生物が見つかるのではないかと、この予想をたてながら調査を行いました。ここでは、「ヒラタドロムシ類」が多く見つかりました。他には、「ガガンボ類」、「トビケラ類」、「カゲロウ類」、「カワニナ」、「ヒル類」、「ミズムシ」、「スジエビ」、「オニヤンマ」、「シオカラトンボ」、「カワヨシノボリ」、「コアユ」、「ウグイ」なども見つかりました。

調査も2回目となるため、「この辺にいそうだ。」、「たぶんこの下に隠れている。」と、慣れた様子で進んで調査することができました。また、水生生物の名前も覚え、講師の先生に聞かずとも自分で種類分けする子どもの姿も見られました。



～「みずすまし」環境日記から～

上流と下流でこんなに生物に違いがあるんだとびっくりしました。水生生物調査をする意味も分かりました。

疑問に思ったことは、きれいな水ときたない水では、きたない水の方が生物が多いということです。やまのこでも水生生物調査をするので、楽しみです。



ザルを置いて足でガサガサしていたら、ガガンボやカワニナがとれたので楽しかったです。魚も捕れました。ぼくは、かべにくっつく魚がいるとは初めて知りました。またつかみたいです。

いろんな生物に出会えてとても楽しかったです。石の裏に卵も見つけました。他の川も調べてみたいと思いました。



大浦川は少し汚れていたけれど、これからきれいにしたいと思いました。きれいな川にすむ生物がいっぱいいほしいです。でも、きたない川にすむ生物も大切だということがわかりました。

今日は、下流の調査をしました。前に調べた上流よりもにごっていることが分かりました。村から来た水や違う川の水が混ざったせいでにごっているなんて、びっくりしました。きれいな川にすむ生物が前に比べて少なかったです。

3. 調査を終えて

上流を調べた際に、「きれいな川」にいる水生生物と、「汚れている川」にいる「カワニナ」などが一緒に見られました。大浦川の上流には田んぼが多くあり、人家の近くでもあることから、そのせいだろうと推測されます。調査の結果では、大浦川上流は「Ⅰきれいな川」、下流は「Ⅱ少し汚れている」ということがわかりました。

4年生の子どもたちにとって、自然に親しみながら、自分の手で色々な水生生物を探し、その水生生物から川の水の汚れ具合を知る活動は、大変意義深いものでした。普段目にする魚や貝の他にも、水の中には、様々な生物がすんでいること、その小さな水生生物から、川の水の汚れがわかることは、大きな驚きでした。

きれいな川を保つことが大事であると考える子どもが多い中、汚れている川にしか生きられない生物がいること、その生物を餌にしてまた別の生物が生きていけることなども調査を通して学ぶことができました。今回の学びを活かし、今後も地域の川を大事にする心を養っていききたいです。

